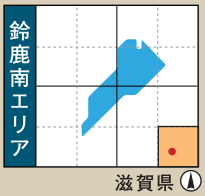
天然記念物
国指定

熊野（くまの）のヒダリマキガヤ

日野町熊野　大正11年10月12指定



ヒダリマキガヤが根を下ろす日野町熊野は、綿向山南西麓にある山間の村で、古く鎌倉時代頃は、日吉神社の荘園となっていました。また、杉の古木に囲まれた熊野神社は、熊野権現を勧請したと伝えられる古社で、宮座の行事として烏帽子着、勧請縄、弓引き、野神祭、日待など古い行事を今に伝えています。このような伝統に守られ、ヒダリマキガヤは、今も静かに成長を続けています。

ヒダリマキガヤについて

ヒダリマキガヤはカヤ（榧）の変種で、日野町熊野で初めて確認され、大正11年（1922）「史蹟名勝天然記念物報告」により紹介されました。

幹や葉は普通のカヤと異なるところはありませんが、種子が普通のカヤに比して大きく、長楕円形で、長さが3.8～4.7㎝、幅が1.3～1.5㎝もあります。種子の表面に浅い縦溝があり、この溝が通常のカヤでは直線であるのに対し、左巻、あるいは右巻にねじれていることにより、ヒダリマキガヤの名称が与えられました。ヒダリマキガヤは、この地域で偶発した突然変異種と考えられ、付近にある若木も親木と同様の種子を付けることから、通常のカヤとは遺伝的に異なる特質を持つものと考えられます。



ヒダリマキガヤ ①



ヒダリマキガヤ ②

熊野のヒダリマキガヤ

日野町熊野には3本のヒダリマキガヤがあり、天然記念物に指定されています。うち2本は熊野から綿向山に向かう道沿いの斜面上（①）に、うち1本は熊野神社から南に降りる細道の肩（②）に根を下ろしています。前2本の大きさは、それぞれ樹高が約21m、樹幹周囲が1.9mと2.4mです。後者の1本は樹高約23m、樹幹周囲が2.2mあります。樹勢は比較的旺盛で、指定当時の大きさから樹幹周囲の大きさが50㎝から60㎝も大きくなっています。

種子表面の溝の変異の程度については、古い記録ですが754個の種子のうち、左巻405個、右巻219個、直線130個という記録が残っています。



ヒダリマキガヤ ②



ヒダリマキガヤ ①

カヤについて

本州の宮城県以南、四国、九州、朝鮮半島に生育する、いちい科の常緑針葉高木です。山地に自生するほか、植栽樹としても利用されます。材は磨くと光沢を増し、特に碁盤、将棋盤として利用される他、水湿に対する抵抗性が強く、加工も容易であることから、器具や建築材としても利用されます。また、種子は食用、薬用とし、食用油も採取することができます。



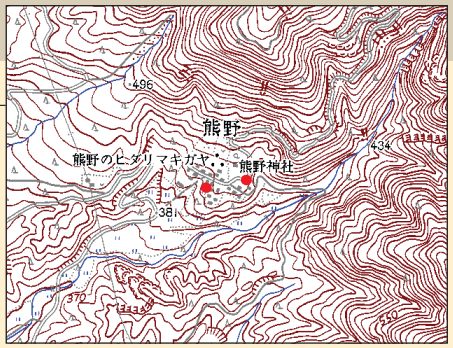
ヒダリマキガヤ ①

天然記念物のカヤ

小原のヒダリマキガヤ（宮城県白石市）	樹皮が著しくねじれる。ヒダリマキガヤの分布上最も北に位置するものとして特筆される
建屋のヒダリマキガヤ（兵庫県養父町）	地元で「カヤノキサン」として親しまれている。ヒダリマキガヤの最大樹として指定された
横室の大ガヤ（群馬県富士見村）	周囲13.17m、高さ25m余りあり、代表的なカヤの巨木として指定された
与野の大ガヤ（埼玉県与野市）	カヤノキ金比羅と呼ばれる、関東唯一の巨木として著名な木である

もっと深く知りたい

日野町教育委員会　☎0748-52-1211　蒲生郡日野町河原470



熊野のヒダリマキガヤへのアクセス　近江鉄道　日野駅下車
名神高速道路　竜王インター

【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月